

平成22年 6月22日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520666
 研究課題名（和文） 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程
 研究課題名（英文） Research on the traits of diplomacy and the formation of territory in the mid tumulus period
 研究代表者 吉澤 悟 (YOSHIZAWA SATORU)
 独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・学芸部教育室長
 研究者番号：50393369

研究成果の概要（和文）：

本研究は、日本の国家形成期（主に5世紀）における対外交渉の実態を、渡来系文物の検討を通じて把握しようとする試みである。奈良県五条猫塚古墳は、蒙古鉢形冑をはじめとする大陸系の金工技術が駆使された副葬品を豊富に含む古墳として有名であり、この整理・分析作業から5世紀に奈良南部に居住した技術集団の系譜、および他地域との接点等の解明を目指した。1500点を越える鉄製品や金銅製品の実測図やX線・カラー写真、出土品データベース等を作成し、そこに用いられた渡来系の最新技術を確認、製作工程の復元的把握等を行い、その広がりについて検討を重ねた。

研究成果の概要（英文）：

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：対外交渉、5世紀、五条猫塚古墳、武器武具

1. 研究開始当初の背景

古墳時代中期の対外交渉、技術導入の在り方について、地域性や集団の特質を具体的に掘り下げた研究はごく僅かであり、とくに観念的な様相が大きかった。

五条猫塚古墳は、昭和40年代に発掘されて以来、大陸的な甲冑や鍛冶工具など特異な副葬品をもつことから、国内研究者はもとよ

り韓国の研究者からも注目されていた。しかし、これまでに報告されている資料では全貌を把握することが不可能であり、今日の研究水準に照らして再検討を行わねば、地域集団の実態や技術系譜を語ることはできない状態であった。

本研究はこの「標識資料」を確実に把握することを一番の急務として出発した。

2. 研究の目的

地域集団や技術系譜を検討することから、古墳時代中期の対外交流の実態を把握するのが最終的な目標である。そのためには上記の「標識資料」の公正な資料化と情報整理、分析を行い、本研究内のみならず後日の研究にも益する基礎地盤を固めることが必要である。加えて、その作業過程で発見された情報をもとに、副葬品の技術系譜や国内・国外の類例追究を進め、これを総合することで当初の目的に達するよう務めることとした。

3. 研究の方法

五条猫塚古墳の出土品は鉄製品を中心として約 1600 点近く存在する。そのすべてを X線撮影し、正確な実測図および写真撮影を行い、基礎資料を作成する。これまでに報告された情報での誤謬や認識ミスを校正し、新たなデータベースを作成する。

また、甲冑や鉄鍬、農具などの種類別に研究メンバーを割り当て、個々の遺物の技術的特質や類例、系譜に至るまでをそれぞれが専門の立場で検討を行う。

これらの情報を持ち寄り、検討会を開き、情報を共有しながら、総括的な報告の準備を進める。

4. 研究成果

五条猫塚古墳の副葬品約 1600 点のほとんど全点について正確な実測図や写真、データベースを完備することができた。

国内外の研究者や韓国の研究者との意見交換を行い、今回の発見と現在の研究状況との検証を行った。

副葬品の種類別にメンバー各自が周辺情報を集め、検討会において情報の共有をはかり、かつ報告書作成の準備をすすめた。

この研究の成果は、下記の学会発表と誌上での中間報告を行い、ひとまずの公開を果たした。同時に正式な報告書を発行できるだけの版組やトレース図も用意され得たので、別途予算が確保され次第、印刷、発行して行く予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

五条猫塚古墳研究会 (川畑純・岩本崇・魚津知克・加藤一郎・阪口英毅・鈴木康高・初村武寛・吉澤悟)

「五条猫塚古墳出土遺物の再整理と新知見

—中間報告—

『鹿園雑集』第 1 2 号 (奈良国立博物館研究紀要) 2010 年 3 月

〔学会発表〕(計 1 件)

五条猫塚古墳研究会 (発表者: 川畑純・岩戸晶子・岩本崇・魚津知克・加藤一郎・阪口英毅・鈴木康高・初村武寛・藤原光平・細川晋太郎・吉澤悟 11 名連名)

「五条猫塚古墳出土遺物の再整理とその新知見」

日本考古学協会 (第 76 回総会研究発表)

2010 年 5 月 23 日 於: 国士舘大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉澤 悟 (YOSHIZAWA SATORU)

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・学芸部・教育室長

研究者番号: 5 0 3 9 3 3 6 9

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者

岩戸晶子 (IWATO AKIKO)

独立行政法人国立文化財機構

奈良国立博物館・学芸部・工芸考古室員

研究者番号：90530634

魚津知克 (UOZU TOMOKATU)

大手前大学史学研究所・主任

研究者番号：70399129